

〈研究発表〉

鈴置拓也

「井上哲次郎「支那哲学史」を通して見る
夏目漱石「老子の哲学」」

パクヨンソン

「夏目漱石『夢十夜』「第九夜」論
—「御父様は何処」へ—」

金子亮太

「セカイ系の変奏としての『デート・ア・ライブ』
—シリーズの長期化とその困難への
アプローチ」

陳越「明代中央宿泊施設会同館の一研究」

陳坤「古賀侗庵と昌平黌における史学」

張月

「日本における于右任の受容について
— 于右任書の収蔵と書展を通して」

〈座談会〉「 災異と疫病と呪術 」

小山聡子 「もののけと呪術」

×

町泉寿郎 「疫病と治療」

×

牧角悦子 「災異と記録」

災異や疫病との闘いが永遠のテーマであることをパンデミックが思い出させてくれました。回避できない災異や疫病と向き合い、人間は宗教や呪術に救済や解決を求めました。災異と疫病と呪術をめぐって前近代の精神史について話し合います。

第一二 二回 大会 人文 学 舎 大 学

2020年12月5日(土)

研究発表 12時～

座談会 15時30分～

於 YouTube

(URLは大学HP人文学会121回大会開催案内を参照)



本大会についてのお問い合わせ先:

二松学舎大学人文学会事務局(jinbun@nishogakusha-u.ac.jp)

『肥後国海中の怪(アマビエの図)』(京都大学附属図書館所蔵)のアマビエ部分
<https://rmda.kuilb.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000122/explanation/amabie>